



◆巻頭言 所思雜感

上手 旦充

旧栄さとやまの会の（2012年より瀬上さとやまの会に改編）にお世話になってからもう7年になろうかと思ひます。当時も今と活動内容は変わらず、間伐、倒木、欠頂木、の処理、アオキ、白ダモ等の雑木、藤蔓などの除伐による林床整理等々だったと思ひます。瀬上の山は会の活動の結果、年々うつくしく、きれいになっています。

平成21年ごろの山の状況を栄区政推進課の森づくり入門講座の中で横浜のスギ・ヒノキ林の現状として、総体的な印象を次のように記しています。

「特に円海山々系について見るならば、なんと言っても手入れ不足が目立ちます。間伐をせずに密植状態のまま放置されていたため、もやしのようにき弱な林になっているところを多く見かけます。加えて林床は、アオキ、シロダモなどの照葉樹に覆われ、生態系が単純で貧弱になっております。また蔓が巻き付いていたり、欠頂木や倒木が多い。」

継続した保全活動が山に美しさと安らぎを与えていきます。新たな目標であるコナラ、クヌギ等の育成、ヤマユリの咲く景観の作成に協力できたらと思ひます。

● 29年11月・12月活動予定

(1)11月12日(日)9時半～14時半

・集合場所 池の下広場

◇作業目的：管理型スギ林への保全作業（オオタカの舞えるスギ林へ）

：ボラ塾生の伐採体験講座の開催。

・作業場所：尾根道大丸エリア（区域A）

・作業内容 ①モニタリング用方形調査枠の設置（10㍍×10㍍）

②作業エリアの境界確定下準備（スズランテープ使用）

③初回相対幹距比票の作成（方形枠内での調査）

④ボラ塾生への伐採指導（枯れ木、欠損木を利用）

・持ち物 常備具（カマ・手ノコ・ナタ）、お弁当、飲料水、防虫薬、他必需品

【持参器具】作業旗、シート、救急箱、チェンソー、ロープ、スズランテープ

巻き尺、ポール、杭（4本）、カケヤ、相対幹距比票

(2)11月26日(日)9時半～14時半

・集合場所 池の下広場

◇作業目的：管理型スギ林への保全作業（オオタカの舞えるスギ林へ）

・作業場所：尾根道大丸エリア（区域A）

・作業内容 ①境界に沿った作業道の造成。

②相対幹距比より1㍍当りの立木本数の決定。

③枯れ木・欠損木・弱木・アオキ・シロダモの除伐。

・持ち物 常備具（カマ・手ノコ・ナタ）、お弁当、飲料水、防虫薬、他必需品

【持参器具】作業旗、シート、救急箱、チェンソー、ロープ、

(3)12月10日(日)9時半～14時半

・集合場所 池の下広場

◇作業目的：管理型スギ林への保全作業（オオタカの舞えるスギ林へ）

・作業場所：尾根道大丸エリア（区域A）・道場丸作業エリア（区域B）

・作業内容 ①枯れ木・欠損木・弱木・アオキ・シロダモの除伐。

②区域Aと区域Bの測量。

・持ち物 常備具（カマ・手ノコ・ナタ）、お弁当、飲料水、防虫薬、他必需品

【持参器具】作業旗、シート、救急箱、チェーンソー、ロープ、杭

カケヤ、テプラで作成した当会の名札

30年1・2月号の原稿に関し、上記活動報告は野澤氏 巻頭言は山上氏 リレートークは戸賀澤氏です。原稿の締め切りは29年12月23日(土)、伊藤氏迄宜しくお願いします。)

欠席される方は、メール(TOKAMI6666@aol.com)又は電話(894-2800)で山上部会長迄。

【瀬上さとやまもりの会 活動日誌】

(1) 平成29年9月10日(日)晴れ 9:30-13:00

活動場所: 道場丸広場 (区域B)

参加者: 伊藤、枝村、小宅、小嶋、酒巻、佐谷、上手、高嶋、戸賀澤、長谷川、三島、山田、渡部 計13名

作業内容: ①管理ヤード保管の杭を各自2本ずつ担いで作業地迄運ぶ。

②「スケールで作業予定地の距離測定。7m×7m 又奥の地域も作業対象として休憩2回を挟んで何とか30cm残すまで処理12時20分。昼食後寄合。

・佐谷氏より南部公園との現地打ち合わせについて報告あり。

作業範囲は道場丸休憩ベンチより下、刈り取った笹は広場との境に置く。椿の剪定は了解済。



(2)平成29年9月24日(日)晴れのち曇り、9:30-12:00

活動場所: 道場丸広場エリア(区域B) 作業内容 笹刈り

参加者: 佐谷、浅見、酒巻、高嶋、長谷川、三島、渡部、渡邊、小宅、枝村、竹内、上手、戸賀澤 計13名

作業前打合せ:

・笹刈りの記録写真について。場所を特定できるようにポールを利用すること。

・モニタリングエリアについて。方形枠(5m×5m)は杭のみとする。笹の切り株を短くし、レーキできれいに集めること。

・10/22、谷戸の子供教室について詳細検討

参加者 50-60 名が見込まれる。 9:30-11:00、11:00-12:30 の2組制

最初、ツバキ枝切りのデモンストレーションを部会メンバーが行い、子供教室の実施作業は玉切りとする。1組5班で1班当たり会のメンバーが3人程度で見守り体制。

安全上、小学生未満は親の付き添い必須でノコは家族で1本親に貸す。

5班なので、玉切り用の馬を5組作成。

玉切りは最後の一切りでノコが足に向かって行く危険が予知されるので特に注意。
蜂、ヤマカガシ、マムシの血清の有無を近隣の病院に事前確認しておく。(小宅担当)

・尾根の方のモニタリングについて、

10m x 10m の範囲の木の密度

・横浜市よりKY(危険予知)について、刈り払い機の近くでの作業は回避することの注意。



(3)平成29年 10 月 8 日(日)晴れ 9:30-12:00

活動場所: 道場丸広場エリア(区域 B)

参加者: 佐谷、渡部、酒巻、山田、長谷川、三島、伊藤、枝村、高嶋、石渡、小宅、戸賀澤
計12名

作業前打合せ:

・本日は道場丸広場で笹刈りの続きとする。・前回準備した馬は、一旦撤去済み。
・トラロープで作業場入口をロープ掛けできるようにする。測量のため、作業エリアをスズランテープで囲う。杭を24本、道場丸へ上げる(2本上げ忘れ、結果22本)道具倉庫に8本

作業:

・入口にトラロープ設置・スズランテープ、2辺に設置(22m、20m)・笹刈り・カントリーヘッジ作成
・南部病院への問合せ結果

マムシの血清については準備あり。スズメバチヤマカガシは血清はない。但し、アナフィラキシーショック用薬は準備あり。30分~1時間の間に救急車または直接でも搬送し治療することが望ましいとのこと。



(4)平成29年 10 月 22 日(日)大雨

台風21号接近のため、谷戸のこども教室、定例活動中止

◆ リレートーク 50年ぶりの南アルプス登山

竹内義裕

標高の高い夏山に体調の優れた時に登りたいなと思っていました。

登山ガイドブックの「中高年のための はじめての山歩き」(日本文芸社)に初心者でも登れる山として「仙丈岳」が紹介されていました。

山小屋泊りの1泊2日コースで初日3時間弱、翌日の帰路は5時間強の安心コースと

大学時代の友人を口説き同行してもらいました。

（登山経験のない妻からは遭難時の救助費用を心配され、損害保険の「団体生活保険」に“救援者費用等保障特約”を追加した。費用は年間 190 円だった。）

9 月 9 日（土）甲府駅からバスを二つ乗り継ぎ、標高 2 0 3 2 M の北沢峠から上り、2 6 4 2 M の「馬の背ヒュッテ」宿泊。

（天候不順の 8 月中旬の当初計画を 2 度も変更して、予約一杯の山小屋に電話で懇請して泊めてもらいました。山小屋の生ビールは 9 0 0 円と高めでしたが冷えてうまかったです。

沸騰させた山水の補給は 1 リットル 1 0 0 円の有料でした。）

翌日曇りの中を登り始めて 1 時間半弱で仙丈岳（標高 3 0 3 3 M）頂上に着き、雲の切れるのを待ち展望をエンジョイ。

途中でベテラン登山者が「岳鳥」と指さしていた鳥をスナップ撮影。この山鳥は「ホシガラス」と呼ばれ、標高 1 5 0 0 M から 2 5 0 0 M のあたりまでのハイ松帯に棲んでいます。

驚いたことに、頂上ではスマホが通じ、直線距離で 30 キロ弱の山梨県北杜市に住む会社先輩に「近所に来ましたので挨拶します」と電話したところ、驚いてました。

この頂上からは日本の標高の高い 3 山の富士山、北岳、間ノ岳が見渡せるところで有名ですが、この日は富士山に雲がかかって見えず残念でした。

頂上では山小屋が作った“チラシ寿司”弁当を食べながら日本三大カールの蘆沢カールをじっくり眺めまわしました。

余裕を持った下山中には携行したパイナップル、巨峰、マスカットなどの贅沢な間食をいただきました。

5 0 年ぶりの南アルプス登山でしたが 7 0 歳台のシニアの私には、じっくりと山の全ての感触を味わえ、今回の登山は素晴らしいものでした。この登山ルートで正面に見える「甲斐駒ヶ岳」が雲で一部が見えなかったことが残念でした。

以上

編集後記

10 月 22 日（日）台風 21 号接近に伴い、谷戸のこども教室の活動は中止となりました。

後日南部公園事務所より、瀬上でも何か所か斜面地の崩落や倒木の被害があった報告がありました。

水辺の上部斜面も一部表層崩落があり、山際の水路が埋まっているとのこと。

樹林地活動場所も今後の安全対策措置が必要かについては、公園事務所とも相談、検討が必至でしょう。（小宅）



（南部公園事務所 提供写真）